

# 千葉 一般入試 英語 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

問 1～問 3 はリスニングテストです。英語の放送を聞き、内容について記号で答えます。問 4 は単語を書く問題です。初めと最後の文字、語数、英語によるヒント、例文を参考にして答えます。日本語は書かれていないので、意味を推測する必要があります。問 5 は与えられた語を適切な形に直したり、語句を並べ替えたりして対話文を完成させる問題です。問 6 は絵に描かれている様子に合わせて 20 語程度で文を書く条件英作文問題です。問 7 は短めの英文 3 つからなる読解問題です。選択問題だけでなく、英語の質問に英語で答える問題も出題されています。問 8 は英語で書かれた学校新聞を題材にした読解問題です。内容を問う記号選択問題と空欄に当てはまる単語を推測して書く問題で構成されています。問 9 は会話文中の空欄に当てはまる文を記号選択問題です。全体的には小問の数は昨年比べて 8 問少なく、問 9 の英文の量も少なくなっているため、昨年より解きやすくなったと言えます。

## 入試までに準備しておくこと

問われている知識は中学の範囲から幅広く出題されているため、中 1 からの復習が必要です。教科書と同じレベルかやや難しいレベルの問題をたくさん解き、慣れておく必要があります。出題傾向は近年大きな変更が見られないため、過去の問題をしっかりと解くことや、同じ形式の問題を解くことが有効です。また、問題形式のほとんどが会話文や長文形式なので、文を速く正確に読む力が必要です。英語の語順で左から右に読む、時間を計って読む、問題を解いた後にできるだけ速く音読する、などが効果的です。単語を書く問題は教科書レベルの基礎単語ではありますが、英語で書かれたヒントから答えを導き出すことに慣れておきましょう。並べ替え問題や語形変化の問題は基本レベルの文法の知識が問われます。偏りなく文法の練習をすることで点数を上げることができます。条件英作文問題では、文を難しくしすぎないように基本文法を活用して英文を書く練習をすることが大切です。主語、動詞、時制、単数複数、接続詞、単語のつづりなど、ミスをしてしまいがちなポイントをチェックしながら作文することも点数アップに効果的です。英問英答問題は疑問詞を確認し何を問われているかを把握すること、時制を確認することで正確に答えられる力を付けていく必要があります。リスニング問題は、継続的に英語を聞き取る練習が必要です。過去の問題や英検 3 級程度の聞き取り問題で練習することが効果的です。

英語 分野別出題形式		22年度	21年度	20年度	
リスニング	記号	内容理解(含英問英答)	21	21	21
	記述	英問英答			
		和問和答			
小計		21	21	21	
語彙	記号	綴り			
		語形変化			
		発音・アクセント			
小計		0	0	0	
文法	記述	適語(句)選択			
		適語(句)補充			
		語順整序			
	記号	部分英作			
		完全英作			
正誤問題・誤文訂正					
小計		0	0	0	
読解	記号	内容理解(含英問英答)	6	18	14
		内容一致	6	3	
		段落・文整序			
		段落・文・節挿入		16	20
		適語(句)・文選択	30	9	18
	語順整序			9	6
	記述	内容理解(指示語など)	3		
		語形変化	6	4	4
		空所補充	15	8	8
		和文英訳			
		部分英作		6	
		英問英答	5	6	3
		条件英作	8		6
和問和答					
小計		79	79	79	
合計点		100	100	100	

# 千葉 一般入試 国語 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

20年度のリスニングテスト導入以来傾向に大きな変化はなく、大問7題の構成でした。

問一は、例年通りリスニング。放送内容について問う設問が3題と、放送内容を踏まえて8~10行で自分の意見を書く作文問題が出題されています。

問二、問三は漢字の読み・書きの設問で、小学校から中学校前半のものが出題されています。

問四は、ことばの表現を問う設問。手紙文を基にした設問形式は新しい傾向です。書き出しの「拝啓」や、敬語、ことわざについて出題されています。

問五は、論説文。短めの文章から6題出題されています。傍線部の説明や理由を問う設問が目立ちます。また、空所に言葉を補充していく設問が多いのも特徴といえるでしょう。1題のみ文法事項からの出題

です。20年度は漢文の返り点、21年度は品詞の分類、今年度は動詞の活用形について出題されました。

問六は、小説。小問は6題で、登場人物の動作や心情を読み取れば設問を解けるものがほとんどで、難易度が高い設問はありません。

問七は、古文です。漢文を書き下し文にする設問や現代仮名づかいに直す設問は例年出題されています。古文については、誰が何をしたのか、順を追って理解することで点数につながる設問が多く出題されています。

国語 出題分野一覧表		22年度		21年度		20年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
リスニング	放送の内容を問う設問	5	3	5	3		8
	放送を基にした作文		12		12		12
漢字	漢字の読み取り		8		8		8
	漢字の書き取り		8		8		8
文法・表現		6		3	6	3	4
敬語			2				2
小説	語句の知識を問う設問						
	心情を問う設問	3	7	6	8	4	8
	場面を問う設問						4
	本文の内容を問う設問		11		7	4	
論説	語句の知識を問う設問						
	接続語の補充の設問					4	
	傍線部の理由を問う設問	4			4		
	傍線部の説明を問う設問	2	9		3		4
	空所を補充する設問	4		7		4	
	段落関係を問う設問						
古典 (古文・漢文)	本文の内容を問う設問				4	4	4
	語句や表現を問う設問		6	3	3		5
	主語を問う設問					2	
	傍線部の理由を問う設問		3				
	傍線部の説明を問う設問			3	7		
	空所を補充する設問	3					4
本文の内容を問う設問			4				4
合計		100		100		100	

## 入試までに準備しておくこと

漢字については、小中学校範囲のもの全てについて読み書きできるか確認をしておきましょう。

論説文については、段落ごとの要旨をつかみながら読み進める練習をしましょう。小説文については、登場人物の心情の変化やその理由を正確に読み取る練習をしましょう。論説文・小説文とも記号選択だけではなく、書き抜きや記述も多く出題されます。多くの問題に触れることで、慣れていきましょう。

古文については、登場人物を把握し、誰が何をしたのかと、その行動の理由などを読み取る練習を数多く積みましょう。仮名づかいや漢文の書き下し文などの表現についても繰り返し問題を解いておくようにしましょう。

また、千葉県では、文法、敬語、その他の文章表現が多く出題されています。文法事項、敬語の知識はもちろん、手紙の書き方、書き言葉と話し言葉、熟語の成り立ち、多義語・対義語・類義語など中学校で学習した言語事項は幅広く復習しておくべきでしょう。

# 千葉 一般入試 数学 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

出題構成は例年通りの問5題でした。

問1は基本的な計算問題などで、正負の数の計算、文字式の計算、等式の変形、因数分解、根号のついた数の計算の6題で計30点の配点でした。問2は、2次方程式、関数の基本内容、相似な図形から線分を求める基本問題、確率、規則性を利用した問題、点対称な図形の作図と6題で、こちらも計30点の配点でした。

問3は、長方形の紙を用いて直方体を作る問題でした。(1)は容易にできます。(2)は方程式に頼るよりも側面の周囲の長さや底面にする四角形の周囲の長さを照らし合わせたほうが早かったようです。問4の証明は、前半が穴埋め形式、後半が記述となっていました。証明の前半分が誘導されてはいるものの、最後まで仕上げるのがなかなか困難なものでした。また、付随する図形の計量問題も手ごたえのある出題でした。最後の問5は、2地点間を異なる速さで往復する2点の間の距離が変化することを利用した問題でした。問題に、2点間の時間に対する変化を示したグラフが与えられており、2点間の距離の変化から点がどちらの向きに移動しているか、折り返し点についてはいつかをきちんと把握することが必要で、式に表すよりも地道に計算したほうが答えは速く出せたようでした。

## 入試までに準備しておくこと

問1は計算問題中心ですが、問2は、方程式、関数、確率、作図、図形と、基本レベルではありますがきちんとした問題が集まった小問集合でした。さらに、問3以降は、方程式を立てる・関数にして表す・図形の定理を用いて式を立てるなどの解法パターンが明確なものとはいえません。数学的な思考力がどれだけあるのかを試すような出題だったといえます。受験対策にこのような問題をしっかりと取り入れることが重要です。教科書レベルの問題を数多く練習して基礎力をつけ、その後は、過去の入試問題などを練習して、さまざまな出題に慣れましょう。特に、図形や点の移動に関する問題は、他都県のものまでも扱い、たくさん練習しておきましょう。また、定理などは、どのようにして成り立っているのかをしっかりと考える習慣をつけておきましょう。

領域	内容	配点		
		22年度	21年度	20年度
数と式	数の性質・表現			
	数の計算	10	10	10
	式の計算	10	5	10
	平方根	5	10	5
	多項式の乗法			
	因数分解	5	5	5
小計		30	30	30
方程式	1次方程式			5
	連立方程式		5	
	2次方程式	5		
	方程式の応用		5	
	不等式・不等式の応用			
小計		5	10	5
関数	比例と反比例			5
	1次関数			
	2次関数	5		
	変化の割合・変域			
関数と図形	直線と曲線		10	5
	関数と図形		10	10
小計		5	20	20
三角形・四角形	角度		5	5
	作図	5	5	5
	合同			
	相似		10	
	三角形			10
	平行四辺形			
円と平面図形	円周角の定理	10	5	
	円と弧・弦・接線			
	線分、線分比	5	5	
	面積、面積比	5		5
	点の移動と図形			
空間図形	線分、線分比			10
	面積、面積比			
	体積、体積比	5		5
	点の移動と図形		5	
	回転体、球			
小計		30	35	40
確率	場合の数		5	
	確率	5		5
総合問題	数と式	5		
	図形			
その他		20		
小計		30	5	5
合計		100	100	100

# 千葉 一般入試 理科 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

生物、化学、物理、地学の各分野から2題ずつ、計大問8題の出題で、配点も各分野に25点と均等に割り振られていました。問それぞれに小問4つずつで合計32題とボリュームのある出題量でした。問1は状態変化で、固体が液体に浮くか沈むかで密度や体積の変化を問うものでした。問2は血液の循環と腎臓のはたらきについての問題で、数学的処理の力も問われました。問3はばねや動滑車、定滑車を使った実験で、力のはたらきや仕事についての問題でした。問4は気象の観測からの出題で、低気圧の移動による風向の変化が難問でした。問5は植物のつくりの観察で、問の中では解きやすいものでした。問6は化学分野。化学反応式やイオンについての出題に加えて実験操作についての出題もありました。問7は斜面をすべる磁石を使っての電磁誘導の問題。問8は、月の見え方と動きについての問題で、日食についても出題されました。

分野	22年度		21年度		20年度	
	出題内容	配点	出題内容	配点	出題内容	配点
物理	力のはたらきとつりあい	3	音と振動数	12	電流と磁界	9
	力のはたらきとばね	6	回路と電流・電圧	10	電磁誘導	3
	仕事と仕事率	4	抵抗の大きさと比例	3	物体の運動と速さ	6
	電磁誘導	6			エネルギーと速さ	3
	コイルと磁界	6			力学的エネルギー	4
小計		25		25		25
化学	状態変化と密度	6	実験と操作	3	実験と操作	3
	状態変化と体積	6	金属の性質	3	状態変化	6
	実験と操作	3	還元	7	溶解度	3
	化学反応式記述	3	炭酸水素ナトリウムの分解	6	金属と酸	3
	電解質とイオン	7	実験の記録	3	化学変化と質量	4
			化学変化と質量	3	中和	6
小計		25		25		25
生物	血液の循環	3	実験と操作	6	植物のつくり	6
	アンモニアと尿素	4	植物のはたらき	7	観察と操作	6
	腎臓のはたらき	6	動物の分類	6	植物のふえ方	4
	スケッチの仕方	3	生物のはたらき	6	赤血球	6
	生殖	3			血液の循環	3
	花のつくり	6				
小計		25		25		25
地学	雲	3	マグマと火山	6	地震と震度	3
	天気図と記号	6	堆積岩と地層のつながり	6	地震の伝わり	9
	低気圧の通過と風向	3	気圧と大気の流れ	6	観測と操作	3
	日食の観測	3	前線	4	太陽の動きの観測	6
	太陽と月の距離	3	低気圧の移動	3	地球の公転と季節	4
	月の公転と自転、見え方	7				
小計		25		25		25
合計		100		100		100

## 入試までに準備しておくこと

記述問題の割合は、若干減っておりますが、問構成や出題形式、出題量は、ここ数年間変わっていませんので、過去の問題をつかって十分に練習をしておきましょう。

出題量が多いのですが、一問一答のような知識ですぐに解答を済ませることができるような出題は少なくなっています。出題形式は、実験や観察を扱ったものが主で、1つのテーマに関していくつかの観察記録や実験が用意されており、問題を読んで、どのような原理を確かめる実験なのか、どのような現象を観察・観測したのか、また、その結果や記録を把握することにとっても時間がかかります。さらに、1つ1つの設問も、きちんと原理を理解して観察や観測、結果についての考察をできることが必要です。特に記述問題では、その力の差がはっきり出てしまうので、教科書に出ている現象や実験の原理はきちんと正しく語句を用いて説明を記述できるようにするなど十分な対策をとることが重要になってきます。

# 千葉 一般入試 社会 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

出題構成は問数9題、総小問数は31題となっており、昨年度よりも設問数が増えています。完答でないと得点にならない問題も多く見られます。また、地理と公民の配点差が縮まる傾向にあります。

問1は例年どおり千葉県を題材にした総合問題です。(3)の統計資料などから空欄の国名を答えさせる問題、(4)の千葉港の輸出入品目・額に関する問題は、難度が高かったと思われます。

問2は都道府県の形と統計資料、問3は地形図を用いての日本地理の出題です。特に問2は都道府県の形を覚えていないと解答できない構成となっています。問4は世界地理からの出題で、語句の記述は平易でしたが、「中国」「アメリカ」をテーマとした選択問題の人口、産業構造の資料分析問題は難しめでした。

問5・6は歴史からの出題です。基礎的な内容、出来事を問われる問題がほとんどですが、学校では扱われる機会が少ない中世ヨーロッパやフランス革命前の社会の様子の風刺画の説明を問う短文記述の問題なども含まれており、基本事項の暗記のみでは対応できない問題も出題されています。

問7～9は公民分野で、7は財政、8は国際社会、9は国会・内閣・地方自治についての出題でした。短文記述の問題も含め、基礎的な内容の出題が多く、資料分析問題も丁寧に読み取ることができれば解答は容易です。

## 入試までに準備しておくこと

設問数が多いことから、基礎的知識の問題は速く正確に解答をすることが必要です。教科書レベルの基礎事項をしっかりと身につけることが必要となります。ただし、資料分析・活用の力も要求されることから、用語の暗記に留まらず、地図、グラフ、写真資料なども一緒に確認をしなければなりません。今年度では中世ヨーロッパやフランス革命の風刺画、オーストラリアの統計など、発展的学習の内容と言える出題も

あったことから、教科書のすみずみまで確認をしておくことも大切です。もちろん、出題形式や傾向にも慣れておかなければなりません。過去の入試問題をくり返し解くことで出題パターンに慣れ、得点力を付けていきましょう。

		単元	22年度	21年度	20年度
世界地理	世界のすがた	緯線・経線	○	○	
		時差		○	○
		大陸・地形	○		
	気候	気候帯			○
		雨温図			
	生活文化	生活		○	○
		文化			
		人口	○		
		宗教			
		エネルギー			○
産業	○	○	○		
各国のようす	○	○	○		
日本地理	農林水産業	農業	○	○	○
		林業			
		水産業	○		○
	工業		○	○	
	都道府県	○	○	○	
	気候	気候のようす	○	○	
		自然			
		災害			
	各地の特色		○	○	
	地形図	○	○	○	
その他	交通・通信				
	貿易	○			
	都市問題				
歴史	原始古代	旧石器・縄文			
		弥生			○
		古墳			
		飛鳥	○		
	中世	奈良	○		○
		平安		○	○
		鎌倉		○	○
	近世	室町	○	○	
		安土桃山			○
	近代	江戸	○	○	○
明治		○	○	○	
現代	大正		○	○	
	昭和	○	○	○	
戦後	○	○			
世界史	○	○			
公民	現代社会	○	○		
	政治	人権			
		憲法			
		選挙			○
		国会	○	○	
		内閣	○		
		裁判所		○	
		三権分立			
	地方自治	○		○	
	経済	消費・流通			
価格・物価			○	○	
生産・企業			○		
金融					
職業					
社会保障					
財政	○	○	○		
国際社会	○	○	○		
配点	地理	34	38	40	
	歴史	36	34	35	
	公民	30	28	25	